

とうわ 藤和けんこう通信



2016年3月号 VOL.65

障害者差別解消法が4月1日に施行

発行元：藤和マッサージ（訪問マッサージ・はりきゅう）
相模原院042-855-0420 町田院042-851-7528 海老名院046-204-5482

藤和マッサージ海老名院主催

『障害者理解講座研修会』を開催



2月22日月曜、おださがプラザにて海老名院研修会『障害者理解講座』を開催しました。講師に神奈川県障害者自立生活支援センターの小野さん・鈴木さんを迎えて、障害についての説明・コミュニケーションの基本・接し方の講演をして頂きました。また4月から施工される障害者差別解消法についての話もして頂きました。後半は、車いすの使用の実技なども行って頂き、障害者への理解を深めることができ大変勉強になりました。

【Q. 障害者へ声かけをしようと思ったが、何て声をかければいいのか分からない？】

A. 声かけをする際、何て声を掛ければいいのか迷ったら『何かお手伝いすることはありますか？』が内容を限定せず広い範囲で聞ける言葉なので一番ベター。障害の事を見ただ目で判断して、できない前提で障害の内容を直接的に言わない方が良い。



車椅子の実技講習も行いました。車椅子を操作する前に必ず声かけをするという事がポイントだそうです。ブレーキ外しますね、前に進みますねなど一声あると安心感が違います。



肢体不自由の方への接し方

- ①付き添いの方がいても、まずは本人と話す
- ②障害者を子供扱いしない
- ③わからないことがあったら、率直に尋ねる

講師 神奈川県障害者自立生活支援センター
小野和佳さん・鈴木浩平さん
講師の方々、ありがとうございました！



何事も思いやりを持って対応します！

障害者差別解消法が4月1日に施行

2月22日に開催された障害者講演会にて話があった『障害者差別解消法』ですが、4月から施行されるとのことで、簡単にご紹介させていただきます。

目的は、すべての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指すことです。

本法のポイント

『合理的配慮の不提供』と『不当な差別的取り扱い』が禁止されます。

国の行政機関・地方公共団体では法的義務が発生、民間事業者は努力義務

『合理的配慮』とは…

例、車椅子の方が乗り物に乗るときに手助けすることや筆談や読み上げなど障害の特性に応じたコミュニケーションで対応する



海老名院では！

技術・知識向上のため、こんなコトもしています。

技術も知識もどんどん吸収する為に、毎月の技術研修とは別に空き時間を利用して施術見学をさせて頂いております。

例えば、同じ症状であっても各々の利用者様によって重度・軽度などで施術の仕方が変わってきます。

より多くの経験や他スタッフの施術方法を見学する事で新たなアプローチ方法が出来るようになってきます。

技術や知識の向上が利用者様に活かされ、少しでも改善させたいと思っています♪

* 見学させて頂く際は、ご本人様(ご家族様)のご了承を得た上で、行わせて頂いております。



石井旭さん送別会を行いました☆

1月25日、鍼灸マッサージ師石井旭さんが、退職するにあたり送別会を開催しました。退職に関しては非常に残念ですが、新しい目標に向かって頑張っていてほしいと思います。なかなか普段話せないことが和気あいあい話せて、やはり飲み会はいいものですね～(^^)／

患者さんは千差万別、お一人お一人のご要望・状態に合わせて施術して参りますので、どんな事もお気軽にご相談下さい！！





保険で禁煙、若者も…来年度に適用拡大へ

(2016年2月4日読売新聞)

厚生労働省は来年度の診療報酬改定から、たばこをやめられないニコチン依存症の治療について、保険適用の対象を20歳代を中心にした若者に拡大する方針を固めた。禁煙治療では、たばこを吸いたい欲求を抑える飲み薬や貼り薬を使う。現在保険の適用範囲は1日の喫煙本数と喫煙年数をかけ合わせた指数が200以上の患者に限られ、喫煙期間が短い20歳代の多くが対象から外れていた。厚労省は今回、指数が保険適用の要件となるのは35歳以上とし、34歳以下は指数と無関係に保険の範囲とすることにした。また、年齢に関係なく、治療を中断する患者が一定以上いる医療機関に対する報酬を少なくする措置も設け、禁煙の達成を促す姿勢も示した。厚労省によると、20歳代の喫煙率は男性37%、女性12%で、近年横ばい。喫煙を始めた年齢が低いとがん発症のリスクが高まるという研究成果もある。

「朝食抜き」脳出血の危険が36%高く

(2016年2月5日読売新聞)

朝食を抜く人は、毎日食べている人に比べて脳出血を起こしやすいという調査結果を、国立がん研究センターなどの研究チームがまとめた。朝食を抜く食習慣と脳卒中との関連が示されたのは世界初という。研究班は、45～74歳の男女約8万人を平均13年間追跡。1週間に朝食を取る頻度を0～2回、3～4回、5～6回、毎日の4群に分けて調べた。その結果、期間中に3772人が脳卒中を発症。朝食を週0～2回しか取らない人の脳卒中の危険度は、毎日取る人に比べて18%高かった。特に脳出血の危険度は、週0～2回の人には36%、3～4回で22%、5～6回で10%と、朝食の回数が少ないほど高かった。くも膜下出血や脳梗塞、心筋梗塞などの心疾患では、関連性は出なかった。高血圧は脳出血の原因に挙げられ、朝食を取ると血圧上昇が抑えられる一方、抜くと空腹によるストレスで血圧が上がるのが過去の研究で分かっている。研究をまとめた磯博康・大阪大教授は「朝食を毎日取る習慣をつけ、生活習慣病の予防につなげるのが望ましい」と話している。

ジカ熱はこんな病気…注意点と予防法

(2016年2月26日読売新聞)

Q ジカ熱はどんな病気か。

A ジカウイルスを持ったネッタイシマカやヒトスジシマカに刺されることで感染する。妊婦の胎内での母子感染も確認されている。輸血や性交渉による感染の報告もある。主な症状は軽い発熱や目の充血、発疹。症状がない人も8割いる。今は蚊が活動する時期ではないので、国内で感染がすぐに広がる心配はない。

Q 注意点は。

A 流行中のブラジルでは、生まれつき頭の小さい「小頭症」の子どもが相次いで生まれている。感染者の中には、急激に筋力が低下するギラン・バレー症候群を発症したケースもある。妊婦は感染流行地への渡航を控え、渡航者は蚊に刺されないことが大切だ。蚊が活動を始める5月以降、国内でも広がる危険性がある。雨水がたまりそうな物を撤去するなど、蚊の発生を防ぐ対策が必要だ。

発行元

無料体験マッサージ、いつでもお気軽にどうぞ
【医療保険適応 訪問マッサージ・はりきゅう】